

U.S.Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 貿易赤字は高水準ながら拡大ペース鈍化(05年5月貿易統計)

発表日:05年7月13日(水)

~ 4~6月期の純輸出のGDP寄与度は7四半期ぶりのプラスに ~

(No.U1-061)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

貿易収支(U.S.International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入		財	
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
04/05	487.42	525.80	+38.38	+2.1	(+17.0)	+3.1	+1.6	(+17.8)	+1.5
04/06	548.93	585.89	+36.96	2.2	(+11.3)	3.5	+2.8	(+19.7)	+3.0
04/07	513.32	550.46	+37.14	+2.1	(+12.4)	+3.0	1.1	(+16.6)	1.3
04/08	541.95	571.03	+29.08	+0.3	(+14.5)	+0.5	+2.2	(+21.1)	+1.9
04/09	519.39	556.27	+36.88	+1.2	(+13.3)	+1.4	0.7	(+17.0)	0.4
04/10	555.74	594.32	+38.58	+0.9	(+11.4)	+0.4	+3.0	(+18.9)	+3.3
04/11	589.78	632.32	+42.54	+0.1	(+8.7)	0.9	+2.3	(+20.9)	+2.4
04/12	546.72	595.14	+48.42	+3.1	(+12.3)	+3.5	0.8	(+16.4)	1.0
05/01	580.78	626.97	+46.19	+0.8	(+14.6)	+0.8	+2.7	(+18.5)	+2.9
05/02	601.17	647.39	+46.22	0.8	(+10.1)	1.2	+0.8	(+17.1)	+0.9
05/03	535.62	588.94	+53.32	+1.6	(+8.6)	+1.1	3.1	(+10.4)	3.7
05/04	568.99	623.16	+54.17	+3.3	(+13.0)	+4.2	+4.3	(+14.5)	+4.9
05/05	553.50	607.57	+54.07	+0.1	(+10.9)	0.1	0.9	(+11.8)	1.2

注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出				輸入					
	産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4	産業資材	資本財	自動車	消費財		
04/08	+0.5	2.2	+0.4	+3.4	+3.8	+2.0	+7.6	0.3	+0.4	0.9
04/09	+1.7	+2.3	0.1	0.3	+1.4	0.4	3.7	+2.2	+1.5	+0.5
04/10	+0.2	+2.7	+0.2	0.1	+0.2	+3.3	+8.0	+0.9	+0.6	+2.2
04/11	1.0	0.7	2.0	1.4	+0.2	+2.4	+6.6	0.7	1.7	+3.3
04/12	+3.4	+3.2	+3.7	+4.9	+5.2	1.0	4.8	+0.4	+1.2	+0.3
05/01	+0.7	+1.0	0.2	+2.2	+0.7	+2.9	0.5	+4.3	+2.6	+5.1
05/02	1.2	+0.8	1.8	5.1	+0.9	+0.9	+4.1	3.6	0.7	+3.4
05/03	+1.3	0.1	+3.0	0.7	0.7	3.7	0.1	1.2	6.8	9.6
05/04	+4.2	+4.6	+5.5	+2.2	1.4	+5.0	+4.6	+7.8	+1.8	+5.1
05/05	+0.1	+1.2	3.0	1.9	+4.7	1.2	5.7	1.8	+5.5	+0.7

注) 季節調整前月比伸び率。

*1: Industrial supplies and materials

*2: Capital goods, except automobiles

*3: Automobiles vehicles, parts and engines

*4: Consumer goods, except automobiles

	輸出					輸入						
	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本		
04/08	+15.3	+23.7	+18.0	+11.0	+9.8	0.2	+24.3	+25.2	+20.5	+18.4	+23.5	+17.2
04/09	+15.5	+14.6	+14.0	+14.7	+16.2	+7.0	+16.3	+12.0	+20.6	+7.0	+18.5	+11.3
04/10	+10.7	+9.1	+10.0	+10.3	+8.3	+16.4	+15.1	+11.3	+18.7	+6.2	+12.1	+6.1
04/11	+7.9	+14.2	+15.4	+4.1	2.7	5.1	+27.0	+22.7	+26.8	+16.5	+24.6	+14.2
04/12	+13.5	+15.3	+14.8	+17.2	+3.7	0.6	+15.9	+13.5	+15.1	+8.0	+16.4	+9.5
05/01	+12.1	+16.1	+14.3	+10.3	+5.5	+0.6	+18.1	+14.8	+17.4	+15.8	+17.0	+11.3
05/02	+7.6	+12.0	+9.5	+6.5	0.2	0.2	+16.9	+13.1	+15.4	+7.2	+22.5	+7.2
05/03	+7.4	+9.5	+5.5	+4.4	0.3	2.9	+9.6	+6.4	+13.3	+2.1	+8.8	+8.6
05/04	+12.6	+12.5	+11.9	+11.0	+6.9	4.2	+13.8	+9.0	+20.4	+5.4	+10.5	+4.6
05/05	+9.3	+12.2	+12.8	+8.6	0.6	4.9	+14.6	+8.5	+16.0	+14.1	+13.4	+8.9

注1) 末季調整前年比伸び率。

注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

553.50 億ドルと
減少し赤字額は市場
予想を下回った

05年5月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、553.50億ドルの赤字(前月比 2.7%)と市場コンセンサスの 570億ドルを下回った。サービス収支の黒字額が小幅縮小したものの、財収支の赤字額が大きく減少した。もっとも、減少に転じたとはいえ550億ドルと高水準であり減少トレンドに転じたと判断するのは早計であろう。

輸出は、消費財が増加したが産業資材、自動車、自動車を除く資本財の減少を主因に前月比+0.1%と停滞した。一方、輸入は原油等産業資材、資本財の減少によって同 0.9%となった。

4、5月の貿易赤字額が1～3月期から縮小していることから、4～6月期の純輸出のGDP寄与度は1～3月期の前期比年率 0.59%から同+0.6%程度と7四半期ぶりのプラス寄与が予想される。

今後も原油価格の高止まりや成長率格差を背景に貿易赤字は高水準で推移する公算

5月は航空機関連の減少によって輸出が大幅に鈍化した一方、輸入が原油価格の下落によって減少に転じたため、赤字額は前月から縮小した。ただし、550億ドル台と高水準を維持している。今後も、航空機関連の輸出は変動が大きく持続的に増加するものではない。また、原油価格が再び上昇しており原油輸入の増加が見込まれることに加え、内需の好調から原油以外の輸入も高水準で推移するとみられることから、現状の貿易・経済構造では米国の貿易赤字の大幅な削減は難しいと考えられる。

貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させるには、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、貿易相手国の輸入障壁の撤廃、輸出先の米国を上回る高い成長(米国輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く上昇トレンドにあるため)、ドル実効レート¹⁾の減価²⁾が挙げられる。、³⁾については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくなり、また貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため高い成長も期待できない。

ドルの実効レートは、景況感・金利格差を背景に下げ止まっている。今後も、継続的な利上げが予想されるため、ドルの押上げ要因になると見込まれる。一方、ドルの売り材料となり易い貿易赤字は、原油価格の高止まりや成長率格差によって拡大が続くとみられ、経常赤字の拡大傾向に歯止めがかかる可能性は低いことから、ドルの上値を抑制する要因となる。

対中、欧州、OPECでの貿易赤字が拡大

地域別の収支では、対中国が 158億ドル(前年比+29.2%)と17ヵ月連続で最大赤字国となった(貿易赤字全体の26.5%に拡大)。対欧州は 105億ドル(同+23.9%)と高水準で推移しており、欧州景気を下支えしている。今後も、高水準の対欧州貿易赤字が続くと見込まれるものの、欧米金利差の拡大や欧州景気の低迷から、ドルは対ユーロで強含み易い環境が持続しよう。対NAFTAが 92億ドル(同+52%)、対日は 66億ドル(同+19.9%)と高止まり、対OPECが 73億ドル(同+27.9%)と原油価格の上昇を映じて過去最高水準まで上昇した。

輸出は民間航空機・同エンジン等資本財の減少で大幅鈍化

通関ベースでは、輸出は消費財、産業資材が増加したものの、自動車、資本財が減少したため前月比+0.1%と増加ペースが鈍化した。一方、輸入は消費財、自動車が増加したが、資本財、原油等産業資材の減少によって同 1.2%となった。

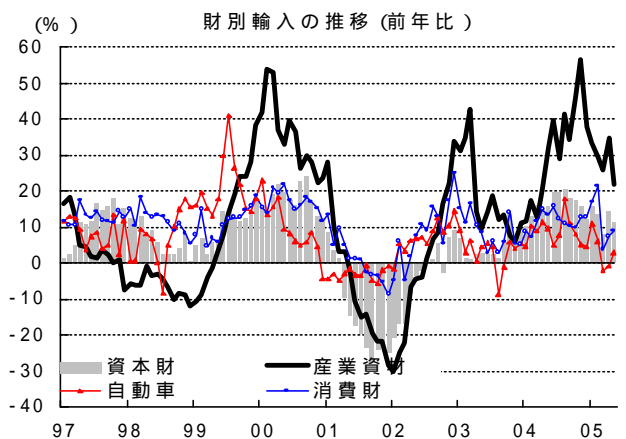
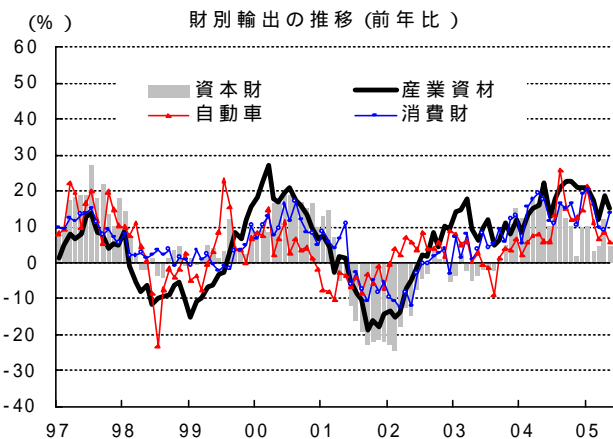
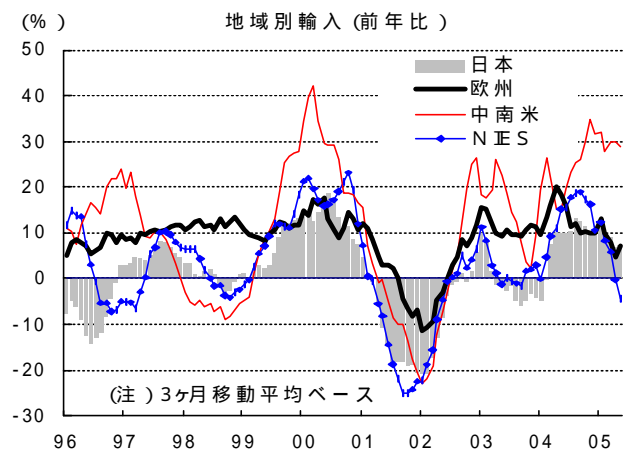
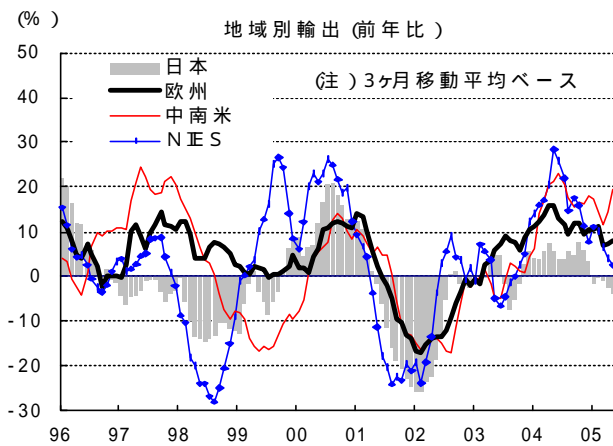
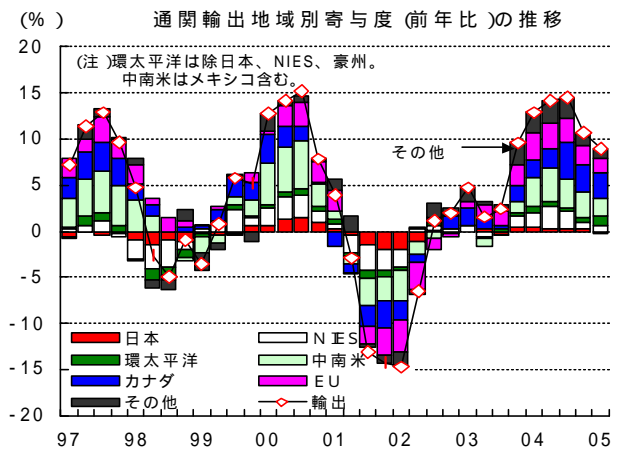
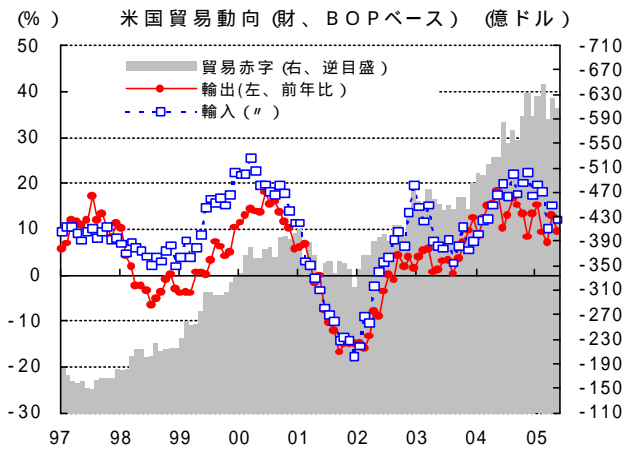
輸出の商品別内訳では、消費財は、骨董品・切手等、調合薬、宝石の増加によって前月比+4.7%と3ヵ月ぶりの増加となった。産業資材は、化学が減少したものの、石油製品、核燃料等の増加によって同+1.2%と2ヵ月連続の拡大となった。一方、資本財は、

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

民間航空機・同エンジン、通信の減少により同 30%と3ヵ月ぶりの減少となった。自動車は同 1.9%と2ヵ月ぶりに減少した。

原油価格の下落によって輸入減少

輸入の商品別内訳では、自動車は前月比+5.5%と2ヵ月連続の増加となった。消費財は調合薬、その他家庭用品、アパレル・繊維関連が増加したため同+0.7%と2ヵ月連続で増加した。一方、自動車を除く資本財輸入は、コンピューターが増加したものの、通信設備、発電機・同部品、半導体、映像機器、木材・ガラス・プラスチック、民間航空機・同部品、産業機械等の減少より同 1.8%と2ヵ月ぶりに減少した。産業資材は、原油、天然ガス、鉄鋼、石油製品、銑鉄等の減少により同5.7%減少した。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。